

デジタル時代における放送の将来像と制度の在り方に関する取りまとめ(第4次)(案)について

2026/4/23

一般社団法人 衛星放送協会

該当箇所	意見
<p>29 ページ第 3 章1(5) テレビ番組のインターネット配 信に係る課題</p>	<p>この章において、テレビ番組のインターネット配信については、主に地上波放送局を中心に論じられているが、衛星放送においてもこの問題は重要な問題である。衛星放送は、現状、直接受信のためにはパラボラアンテナの設置が必要であることやケーブルテレビでの受信のためにはセットトップボックスが必要であることから、固定受信に限定されることとなり、視聴者の受信環境の多様化や変化に対応できていない状況である。こうしたことを克服するために、配信の方式にとらわれず容易に配信事業に取り組むことが可能となるような制度整備を希望する。</p>
<p>46 ページ 第 4 章2(2) 衛星放送の在り方</p>	<p>「衛星放送 WG」の取りまとめを受けて、総務省において制度整備を進めていただいた事項については、意義のあることだと考えている。ただ、協会が、長年にわたって要望している「インフラコストの低減」については、その効果を実感できるような施策が行われていない現状である。とりまとめにもあるように「インフラコストの低減」についても、「個々の事業者では対応が困難な課題」が多いため、可能な限り早期に「関係事業者・団体・総務省が問題意識を共有し、協力・連携して着実に取り組んでいく」座組の立ち上げを期待する。取り組むべき課題については、総務省が、本年 2 月に行った「今後の BS 及び東経 110 度 CS に係る衛星放送のインフラのあり方等に関する意見募集」において示された関係事業者からの具体的な要望をもとに検討を進めることが可能だと考える。</p> <p>2026 年中に示される「次期共同衛星」の免許の審査基準については、「次期共同衛星」がインフラコスト低減のための基本であるので、低減に寄与するような審査基準を設けることを改めて要望する。</p> <p>BS4K 放送については、第 2 次取りまとめで、4K コンテンツ流通の「太い幹」と位置付けていることから、行政として、今後も、その普及促進に取り組むことを希望する。ただ、キー局系 BS 放送事業者が、相次いで「BS4K 放送」からの撤退を表明し4K 放送のチャンネル数が減少することになる。このことは、「BS4K 放送」市場の縮小にとどまらず「衛星放送」市場全体の縮小につながるものが危惧されるだけに、空き帯域となる BS 右旋の4K 中継器周波数について早期に活用策を示すべきであると考え。周波数活用にあたって、新規事業者の参入や衛星における帯域再編が行われることとなり、衛星放送の受信環境に変化が起ることになるが、衛星放送市場の維持・拡大の</p>

	<p>ため、衛星放送のインフラ提供事業者において、受信環境整備のための施策を行うことを求める制度整備を希望する。</p> <p>衛星放送について、地上波放送の難視聴対策や地上波放送ネットワーク維持のための手段としての活用及び広域大規模災害時の情報伝達手段としても位置付けられていることから、ケーブルテレビに対して、総務省予算で強靱化のための措置が行われていることにかんがみ、衛星放送ネットワークの維持についても行政による対応措置の創設を希望する。</p>
<p>55 ページ第 5 章2 テレビ番組のインターネット配信の在り方</p>	<p>この項においては、主としてローカル局を念頭に置いた記載となっているが、衛星放送事業者にとっても、視聴者減少に伴う受信料収入の減少も進んでおり、経営状況はローカル局同様に厳しいものである。このため、固定受信に縛られる衛星放送の事業活性化のために視聴形態の変化に対応し、衛星放送のアイボール拡大に資するような配信事業拡大に寄与する制度整備を希望する。</p>
<p>56 ページ第 5 章4 インターネットを含めた情報空間全体における放送の在り方</p>	<p>検討会では、「放送の定義」の見直しが議論され、結論が得られるものと考えていたが論点が多岐にわたることから、今回の取りまとめ案では結論にまでは至らなかったと考える。ただ、情報空間全体における放送の在り方の検討は、「将来的なインフラのあり方」の検討にとどまるものではなく「将来的な放送サービス」の在り方にもかかわるものである。「衛星放送 WG」では、「持続可能な衛星放送の将来像」を描くべく多くの論点について議論が行われたが、放送における衛星放送の位置づけについての検討が改めて必要であるともいえる。ただ、キー局系 BS 事業者が表明した4K 放送からの撤退が、衛星放送市場そのものの縮小につながる危惧があることから、衛星放送の位置づけの議論に合わせて、BS 右旋の4K 放送周波数の空き帯域の今後の利用についても早急に結論を出すことを希望する。</p>